

2007年2月13日

各位

ダイセル化学工業株式会社

新中期計画策定について

ダイセル化学グループは、このたび、2009年度を最終年度とする2006年度版中期計画（以下、「新中期計画」といいます）を策定いたしました。

新中期計画では、本年度末に終了する現行の2003年度版中期計画（以下、「現中期計画」といいます）の成果を踏まえ、2009年度までの10年間の第2次長期計画で目指す「価値提案型化学メーカー」の姿に着実に近づくべく企業価値をさらに高める施策を遂行するとともに、2010年以降を見据えた一層の基盤強化に取り組んでまいります。

I. 現中期計画の振り返り

第2次長期計画中盤の3年間の実行計画である現中期計画は、次の2点を2006年度の連結ゴールと定め、「達成する中期」「振り返る中期」をキーワードに遂行してまいりました。

- ①連結売上高 3,000 億円、営業利益 300 億円、ROA（総資産経常利益率）6%を超える
- ②注力事業^{*1}・切り口事業^{*2}・新規事業の営業利益への貢献比率が 30%を超える

現中期計画の3年間、景気が緩やかな回復を続ける中で、当社グループは、主にエンジニアリングプラスチック事業と、新たな柱に成長した自動車エアバッグ用インフレーター事業を推進力に、業績を大きく伸ばしてまいりました。また、この間に、従来は安定的に収益を確保する事業と位置づけていた酢酸セルロース事業が設備投資を積極的に行って更なる成長を目指す事業となりました。これは、当社グループが、わが国が得意とする自動車分野と電子デバイス分野とりわけフラットパネルディスプレイ分野に焦点をあてた事業展開を行った成果であると考えております。

また、生産革新活動と業務革新活動によるコストダウンや内部統制の仕組みづくりなどの基盤強化にも取り組んでまいりました。

その結果、上記①の業績目標につきましては、2005年度に1年前倒しで達成し、2006年度も上記目標数字を上回る見通しですが、②につきましては未達となる見通しで、次代を担う新規事業の創出の面では新中期計画に課題を残すこととなりました。

※1 注力事業……高い成長性が予測されている市場に参入し、展開していく事業。

医薬中間体や自動車エアバッグ用インフレーター等

※2 切り口事業…当社の事業と技術の強みを活かせる領域で、成長が見込める市場を開発し、注力事業への切り口としていく事業。

有機ファインケミカル製品等

II. 新中期計画の概要

新中期計画は、第2次長期計画最終の3年間の実行計画であり、次の4点を目標としております。

①2009年度連結業績

売上高 4,500 億円、営業利益 550 億円、ROA（総資産経常利益率）9%を超える

②事業のさらなる選択と集中

③新規事業の育成と探索

④基盤強化

1. 連結業績計画

(1) セグメント別連結業績計画

新中期計画における2009年度のセグメント別業績計画は次のとおりです。

| | 2006年度予想 | 2009年度計画 |
|---------------|----------|----------|
| 売上高（億円） | 3,770 | 4,500 |
| セルロース事業部門 | 640 | 885 |
| 有機合成事業部門 | 925 | 960 |
| 合成樹脂事業部門 | 1,585 | 1,855 |
| 火工品事業部門 | 550 | 700 |
| その他事業部門 | 70 | 100 |
| 営業利益（億円） | 360 | 550 |
| セルロース事業部門 | 118 | 206 |
| 有機合成事業部門 | 100 | 131 |
| 合成樹脂事業部門 | 145 | 190 |
| 火工品事業部門 | 67 | 102 |
| その他事業部門 | 10 | 16 |
| 消去又は全社 | ▲80 | ▲95 |
| ROA（総資産経常利益率） | 6.6% | 9%超 |

(2) セグメント別の主な事業戦略

①セルロース事業部門

液晶表示向けフィルム用に大幅な需要拡大が見込まれる三酢酸セルロース（TAC）、世界需要の長期安定的な推移が予想されるとともに大手たばこメーカーのアジア地域での生産拡大による域内需要増も見込まれるたばこフィルター用トウおよびその原料である二酢酸セルロースの増産計画を着実に推進します。

サプライチェーン・マネジメントの推進や共同開発強化などにより、重要顧客や原料メーカーとの関係強化を図ります。

②有機合成事業部門

汎用品、ファインケミカル製品とも、既存製品については選択と集中を一層推進し、事業基盤の強化、収益性の向上に努めます。

今後も高成長が見込まれる電子情報材料市場での事業確立に注力します。

CPI（光学異性体分離カラムおよび医薬中間体）事業は、当社グループの強みであるクロマト法による光学異性体分離事業を一層強化・拡大します。

③合成樹脂事業部門

電子デバイス分野の高成長、中国市場の拡大、自動車部品分野の安定成長などが見込めるエンジニアリングプラスチック事業は、中国市場での販売拡大やスーパーエンジニアリングプラスチックである液晶ポリマー（LCP）の増産計画の着実な推進、高付加価値製品の市場開発の推進などにより、アジア太平洋地域におけるリーディングカンパニーの地位を維持・強化します。

④火工品事業部門

自動車エアバッグ用インフレーター事業は、日系自動車メーカー向けで世界 No.1 サプライヤーの地位を維持・拡大すべく、世界 5 拠点を活用した最適な生産・販売体制で顧客のニーズに応えてまいります。また、品質・安全管理の一層の強化、生産性の更なる向上に取り組みます。

2. 事業のさらなる選択と集中

当社グループの 4 本の柱であるセルロース、有機合成、合成樹脂、火工品の各事業をさらに強固にしていくために、M&A も視野に入れて、事業のさらなる選択と集中を進めてまいります。

3. 新規事業の育成と探索

- ・電子情報材料分野向け機能化学品・機能材料・機能部材に関する事業群を、次世代の柱と感じさせる内容と規模に育成します。（目標事業規模：100 億円）
- ・2010 年以降を見据えた有望な事業テーマの探索に注力します。

4. 基盤強化

当社グループが 2010 年以降も持続的に成長・発展し、より魅力的な企業グループとなるための基盤づくりに取り組みます。

(1) 生産革新・業務革新活動の拡大と定着

①生産革新活動

2006 年までに進めてきた網干・大竹・新井のプロセス型各工場での活動の定着化を図ります。

また、播磨工場のような組立加工型工場に展開するとともに、今後新設するプラントやグループ企業への横展開を図ります。

②業務革新活動

2006 年までに導入してきたセルロース、有機合成、CPI の各カンパニーとポリプラスチック株式会社においては、新しい業務フローの定着化を図るとともに、更なる改善を進めます。

また、特機・MSD カンパニーのような組立加工型事業やグループ企業への横展開を図ります。

(2) グローバルでのグループ経営の強化

新中期計画期間において海外のグループ企業を中心に要員の大幅な増加が見込まれることから、グループ本社としての当社コーポレート部門の役割（サポート&チェック機能）を強化します。

(3) レスポンシブル・ケア（環境・安全経営）

環境安全経営を確立し、「持続可能な発展」ができる企業グループとなるべく、レスポンシブル・ケア活動について、グループ企業への展開を強化します。

特に、地球温暖化防止と省エネルギーについて、2005年度に達成したエネルギー原単位指数（1990年度を100とする）88をさらに低減するべく、次の施策を展開しております。

- ・ 姫路製造所網干工場、同製造所広畑工場、新井工場、ポリプラスチック株式会社富士工場において、燃料の重油から天然ガスや都市ガスへの転換を進めることで、温室効果ガスの排出削減を図ります。
- ・ 1997年より新井工場において使用済みタイヤをボイラー燃料として利用しておりますが、大竹工場で2007年秋に稼動予定の循環流動層ボイラーにおいても使用済みタイヤを熱資源として再利用することで、一層の石化燃料の節約と二酸化炭素排出削減を図ります。
- ・ 阪神港、姫路・大竹間の原料及び製品の輸送について、トラック輸送から内航フェリー船へのモーダルシフトにより、省エネルギーと環境負荷の低減を図ります。なお、本件は、2006年12月、経済産業省のエネルギー使用合理化事業者支援事業の助成対象に決定しております。

(4) コーポレート・ガバナンス（リスク管理と内部統制）

新中期計画においては、次の3点を主要課題としてコーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでまいります。

- ・ グループ全体におよぶリスク管理体制の整備
- ・ 財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムの構築
- ・ 「内部統制システム構築の基本方針」に基づく、様々な視点での内部統制強化

以 上

〈本件に関するお問い合わせ先〉

ダイセル化学工業株式会社 事業支援センター IR 広報グループ

電 話 : 03 - 6711 - 8121